

# 専門学校第三者評価 報告書

学校法人 山口学園  
ECC コンピュータ専門学校

令和2年2月

一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

# 目次

<b>I</b>	<b>評価結果 .....</b>	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>基準ごとの評価 .....</b>	<b>2</b>
	基準 1 目的・目標の設定および入学者選抜 .....	2
	基準 2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性 .....	5
	基準 3 職業実践専門課程の認定要件の適合性 .....	10
	基準 4 内部質保証 .....	13
	基準 5 学修成果 .....	16

## 【参考資料】

対象学校から提出された自己評価書から転載

- I 現況および特徴（学校名、所在地、学生数および教員数、特徴）
- II 学校の目的・目標
- III 自己評価の概要

# I 評価結果

ECC コンピュータ専門学校は、専修学校設置基準および職業実践専門課程認定要件をはじめとした関係法令に適合し、専門職高等教育質保証機構が定める評価基準を満たしています。

主な優れた点として、次のことが挙げられます。

- 学生の不安や悩みについて、学生相談室・保健室を設置し、臨床心理士と看護師が常駐して対応するなど、学生の学修指導、相談、助言の施設や体制は充実し、きめ細かく適切に行われており、優れています。
- 留学生に対して、わかりやすい「留学生ハンドブック」の提供、教職員による「留学生対応のための情報」の共有、入学前に日本語教育の機会の提供など、学生生活を送りやすい環境の整備が積極的に行われており、優れています。
- ゲーム・クリエイティブ分野では、専門学校生が学修成果を披露して競う各種コンテストに多数の入賞者を輩出して、学校が意図する学修成果をあげており、優れています。

主な改善を要する点は、特にありません。

更なる向上が期待される点として、次のことが挙げられます。

- 各ポリシーと育成人材像、カリキュラム間の表現等の整合性を高めることが期待されます。

## Ⅱ 基準ごとの評価

### 基準1 目的・目標の設定および入学者選抜

- 目的・目標が、適切かつ明確に定められており、その内容が職業実践的な教育に適したものとなっており、当該目的・目標が周知、公表されていること。
- 入学者受入方針が明確に定められ、それに沿った学生の受入が適切・公正に実施され、機能していること。
- 実入学者が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

**【評価結果】** 基準1を満たしている。

評価結果の根拠・理由

1-1 学校の目的・目標において、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等が、適切かつ明確に定められているか。
--

学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校は、高度情報処理研究学科(4年制)、マルチメディア研究学科(3年制)、マルチメディア学科(2年制)および経営工学科(2年制)を設置しています。これらの学科のうち、高度情報処理研究学科、マルチメディア研究学科、マルチメディア学科(留学生を対象とした国際エンジニア専攻を除く)が文部科学省より職業実践専門課程として認定されています。

同法人が設置する三つの学校は、学校法人としての共通の「理念」を掲げており、この理念に基づいて、それぞれの学校は教育目的を定めています。ECC コンピュータ専門学校は、「学校教育法及び教育基本法に基づき、情報処理教育を通じて高度な技術力・柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた企業及び社会が必要とする人材を育成することを目的とする。以て世界の情報ネットワークの推進と情報社会の発展に貢献したい。」という目的を定めています。この目的に沿って、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定し、それぞれの学科・コースの「教育目標」を定めています。設置者が掲げる理念のもとに、学校ごと、学科・コースごとに目的や目標を設定し、養成する人材像等が体系的、明確かつ適切に定められています。

「目標」については、IT、ゲーム・クリエイティブ業界の動向を踏まえて毎年度見直しを行っています。2019年度には、「希望者全員就職」という具体的でわかりやすい目標を定めると同時に、その目標を達成するための人材要件として、「専門力」「国

際力」「人間力」を掲げ、これらの「力」の目標水準を示すとともに、これらの「力」を養成するための「カリキュラム・ポリシー」や「ディプロマ・ポリシー」「教育目標」を、学科・コースごとに定めています。

各ポリシーと育成人材像、カリキュラム間の表現等の整合性を高めることが期待されます。

1-2 学校の目的・目標が、構成員（教職員および学生）に周知され、社会に広く公表されているか。
---

目的および目標について、教員に対しては年度末に実施される全講師ミーティングにおいて周知が図られています。新入生に対しては入学当初実施される「教育方針説明会」において周知が図られ、進級生に対しても進級時の「オリエンテーション」において周知が図られています。いずれの場合も、目的や目標が記述された冊子「HANDBOOK 2019 本学で学ぶ人のために」（HANDBOOK に関しては、基準 3-3 でも言及）が配布され、認知・共有が図られています。HANDBOOK の内容は多岐にわたっており、学校生活に対する具体的な理解を促進するものとなっています。

この冊子は Web ページにも公開され、誰もが閲覧できる状況にあり、ホームページの「学校紹介」ページの先頭に、「理念・到達目標」を配し、「山口学園の教育理念」「(学校の) 教育目的」「(カレッジ別の) 教育目標」を明示していることなどから、学校の目的・目標等が社会に対して広く公表されています。

1-3 学校の目的・目標に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針が明確に定められ、公表、周知されているか。
---

入学者受入方針は、「本学の学園理念および教育目的に則り、本学の入学を第一志望とする下記 1～5 のいずれかに該当する人物を求めています。」と策定され、具体的に次の 5 項目が掲げられています。

1. 明確な学習目的があり、計画的に目的・目標を達成しようとする意欲がある。
2. 将来の職業イメージを明確に持ち、職業を通じて社会に貢献しようとする意欲がある。
3. 学内の行事・イベントに積極的にかかわり、学生リーダーとして活躍しようとする意欲がある。
4. 学外のコンテスト等に積極的に参加し、入賞しようとする意欲がある。
5. 国際化へ積極的に対応しようとする意欲がある。

これら 5 項目は、それぞれ入学者受入方針の要素として適切であり、受験者が自身の特徴を活かすポイントをアピールする指針ともなっています。

この方針は、AO入試の受験者に向けた募集要項や Web ページに示されていますが、2021 年度の学生募集からは、他の種類の入試においても、同様の内容の周知を図ることにしています。

1-4 入学者受入方針に沿った学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が、適切な実施体制により公正に実施されているか。

入学者数の多くを占める AO 入試については、「入試面接ガイドライン」を策定することによって、その手続きの標準化を図っています。このガイドラインの内容は、アドミッション・ポリシーに沿ったものとなっています。AO 入試以外の入試においても、適切な実施体制によって公正に実施されていると判断します。

1-5 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

高度情報処理学科（4 年課程）は、実入学者が、入学定員を上回る状況（2017 年度 6.7%、2018 年度 20.0%、2019 年度 29.0%）が続いています。

マルチメディア研究学科（3 年課程）は、2017 年度から 3 年間の実入学者数と入学定員の差の入学定員に対する比率はいずれも ±10% 以内です。

マルチメディア学科（2 年課程）は、2017 年度から 3 年間の実入学者数が入学定員を若干下回る程度の状況です。

以上のことから、3 学科いずれも入学定員と実入学者の定員管理は適正に行われており、優れています。

以上の内容を総合して、「**基準 1 を満たしている。**」と判断します。

#### 【優れた点】

- 入学定員充足に問題を抱えている専門学校が多数ある中で、適切な定員管理の下で、着実に実入学者数が増加しており、優れています。

#### 【改善を要する点】

#### 【更なる向上が期待される点】

- 各ポリシーと育成人材像、カリキュラム間の表現等の整合性を高めることが期待されます。

## 基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性

- 専修学校設置基準および関係法令等の定める、教員資格、教員数、授業時数、校地校舎の面積、施設等に適合していること。
- 目的・目標に照らして、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準、授与される職業資格との関係において適切であり、当該職業分野の期待に応えるものになっていること。
- 教育組織および教育課程に対応した施設・設備ならびに図書、教育上必要な資料が整備され、有効に活用されているか。
- 学習を進める上での履修指導および学習相談・助言が適切に行われていること。
- 目的・目標を達成するために必要な管理運営のための組織および事務組織が整備され、機能していること。

**【評価結果】 基準2を満たしている。**

評価結果の根拠・理由

2-1 教員組織および職員組織の編制のための基本方針を有しており、それに基づいた教職員の採用および組織編制が行われているか。

山口学園全体および本校においては、教職員組織編成の基本方針は明確に定められています。その結果、必要な教職員が安定的に確保されており、組織は有効に機能していると判断されます。ただ、教職員の採用に関する規定の整備・文書化等が期待されます。

2-2 教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、専門分野に關し教育上の指導能力があると認められる専任教員が、関係法令が定める数以上置かれているか。

2019年度学生総定員1,442名に対し、専任教員49名、兼任教員58名となっており、専任教員1人あたりの学生数が29.4名、兼任教員も含めた教員1人あたりの学生数が13.5名となっています。実務経験のある教員が多数の授業を担当しています。これらの数は、専修学校設置基準に示された教員数の要件を満たしています。

2-3 授業科目（課目）が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。教育課程の編成や教育内容が、学生の多様なニーズ、関係業界の発展動向、社会からの要請等を反映したものになっているか。

学校の目標に照らして作成したカリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラム編成が行われています。業界関係者との良質な関係を築き、業界や社会の動向を把握できる態勢にあり、授業は企業訪問時のフィードバックなども生かされた内容となっています。

シラバスは、Web ページに掲載され、どこからでも参照できる仕組みになっています。

教育課程編成委員会における議論や企業訪問結果を参照した日常的なカリキュラム編成の見直しを行う体制が整備されています。

目標として掲げた「国際力」の育成のための英語や英会話の授業が充実しており、優れています。

2-4 学生の履修に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。ひとつの授業科目（課目）について同時に授業を受ける学生数が、授業の方法および施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられるような適当な人数となっているか。

コース・専攻ごとに設けられた複数のクラス単位に時間割が編成されており、卒業に必要な単位数や時間数を明記したカリキュラム表が配布されています。すべての教室の収容人数は 36 名以下となっており、学生の履修に配慮した時間割が設定されています。演習や実習については、主担当の講師に加えてチューターを配するなど、円滑な授業を行うように配慮されています。

2-5 学生の履修指導および学習相談・助言が、学生の多様性（履修歴や実務経験の有無等）を踏まえて適切に行われているか。

クラス担任制を導入し、前期・後期開始時より担任がクラス内の個別面談を実施しています。面談は、教務課が定めた「面談要項」に沿って、約 1 か月の期間を設け、学生の多様性を踏まえた学修相談、学校生活への助言を行っています。このような取り組みの結果、中退率は全体で 5～6%にとどまっています。

学生の不安や悩みについては、学生相談室・保健室を設置して、臨床心理士と看護師が常駐しています。カウンセリングは学生だけでなく、教員や保護者も受けることが可能で、必要に応じて医療機関とも連携しています。

以上から、学生の学修指導、相談、助言の施設や体制は充実し、きめ細かく適切に

行われており、優れています。

**2-6 教育課程に対応した施設・設備（図書、視聴覚資料その他の教育上必要な資料を含む）が整備され、有効に活用されているか。**

3校舎合計で48教室（普通教室10、ノートPC対応教室25、実習教室13）があり、教室稼働率は約9割に達しています。すべての実習教室には、プロジェクター、スクリーンが設置され、学生の学修に有効活用されています。

3校舎で共通に使えるコンピュータネットワークが構築され、どの校舎でも自由に使える無線LAN環境を整備することで、学生の利便性を図っています。このネットワークでは、外部企業との連携によって安全な環境を構築することで、ウイルスその他の不正アクセスを防止しています。

情報セキュリティに関しては、個人情報を「個人情報取り扱い規約」に基づいて管理しています。特に、個人情報、機密文書の外部漏洩には細心の注意を払っており、PC本体や各種媒体を学外へ持ち出す際には書面での届け出を義務づけています。このように、情報セキュリティや個人情報保護等に関する配慮について、方針の確立、教職員の意識の高さ、方針に基づいた環境整備がなされています。

図書室の蔵書を充実させることにより、学生の学習意欲と利便性を向上させる努力が着実に進められており、更なる充実が期待されます。

**2-7 学生支援の一環として、学生がその能力および適性、志望に応じて、主体的に進路を選択できるように、必要な情報の収集・管理・提供、ガイダンス、指導、助言が適切に行われているか。**

卒業前年次よりクラス担任による授業「キャリアデザイン」「就職対策Ⅰ」で就職活動の準備を行うとともに、進路指導課スタッフによる「業界ガイダンス」を夏休み前に行っています。これらの授業の内容はコマシラバスによって標準化され、そこで使用する教材・資料等も最新のものにアップデートされています。

卒業学年の学生に対しては、クラス担任が日々の授業と個人面談によって就職活動を支援しています。進路指導課スタッフが担当するクラス担任との面談をもとに、毎週行われる就職対策授業で求人情報の提供や就職活動の支援を行っています。

教職員側は、クラス担任と進路指導課スタッフの連携を中心とする体制で学生の就職活動を支援し、就職活動状況は教職員専用の電子掲示板および毎週行われる運営責任者会議で共有されています。さらに、学生が就職活動を終えた後は、今後の就職試験のアドバイスに資するように就職活動報告書を提出させ、次の機会に活用できるよ

う分析しています。

2-8 特別な支援が必要と考えられる者への学習支援、生活支援等の実施体制が整備されているか。

留学生については、設置者である学校法人山口学園の Web ページに「外国人留学生入学案内」ページを設け、積極的に受け入れています。同 Web ページには、入学に至るまでのプロセスが明示され、ナビゲーションの仕組みの一つとして機能しています。留学生に対する配布物（特に、「留学生ハンドブック」など）では、内容が理解しやすいようにする工夫が行われており、日常生活や健康・安全などに関する注意事項、山口学園の安否確認サイトの利用方法、日常生活に関連した各機関についての説明など多岐にわたる役立つ情報が提供されています。

留学生への対応方法に関して、担当者だけでなくすべての教職員が、「留学生対応のための情報」など文書を共有することにより、留学生が学生生活を送りやすい環境の整備が行われています。

留学生に対しては、入学前に日本語教育を実施し、4 月からの授業を円滑に受講できる仕組みを提供しています。

以上のように、留学生に対する支援が多方面にわたって実施されており、優れています。

障害のある学生など特別な配慮が必要な学生に対しては、学生相談室、保健室の担当カウンセラー（臨床心理士）、保健師と連携して対応しています。そのために、情報共有等を目的とした「学生相談室ミーティング」を毎月 1 回定例で実施しています。

バリアフリーも整備され、車椅子を使用する職員が日常的に勤務していることから、適切に機能していると判断します。

以上の内容を総合して、「**基準 2 を満たしている。**」と判断します。

**【優れた点】**

- 目標として掲げた「国際力」の育成のために、英語や英会話の授業を充実させていることは、優れています。
- 学生の不安や悩みについて、学生相談室・保健室を設置し、臨床心理士と看護師が常駐して対応するなど、学生の学修指導、相談、助言の施設や体制は充実し、きめ細かく適切に行われており、優れています。
- 留学生に対して、わかりやすい「留学生ハンドブック」の提供、教職員による「留学生対応のための情報」の共有、入学前に日本語教育の機会の提供など、学生生活を送りやすい環境の整備が積極的に行われており、優れています。

### **【改善を要する点】**

### **【更なる向上が期待される点】**

- 教職員の採用に関する規定の整備・文書化等が期待されます。
- 図書室の蔵書を充実させることにより、学生の学習意欲と利便性を向上させる努力が着実に進められており、更なる充実が期待されます。

### 基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性

- 職業実践専門課程の各認定要件（教育課程編成委員会、企業等と連携した実習・演習、教育活動等に関する情報公開）に適合していること。

**【評価結果】** 基準3を満たしている。

評価結果の根拠・理由

3-1 教育課程編成委員会等の委員構成が適切であり、委員会が適宜開催され、その結果が教育課程の内容に反映されているか。（なお、教育課程の編成内容に関しては、基本的な観点 2-2～2-5 において評価する。）
---

教育課程編成委員会（以下「委員会」）は、職業実践専門課程の認定課程ごとに設置され、毎年度7月および1月（部分的に2月）に実施されています。各委員会における委員構成は、いずれの委員会においても、ほぼ全国専修学校各種学校連合会（全専各連）が定めたガイドラインに沿ったものとなっており、活発な議論や意見交換が行われています。委員会における議論の結果を、次に示す事例のとおり、積極的に教育課程の改善・改革に活かしています。

#### 【ゲーム・クリエイティブ分野】

- ・ 突出した技術を持った学生の育成システム（ハイレベルプログラミングゼミ）の創設
- ・ 英語でモノづくりをする選択科目（2科目）の開講＜プロジェクト制作、ゲームサウンド＞
- ・ 新しい英会話授業（コンピュータ英語）開講に向けたカリキュラムと教材の開発

#### 【IT分野】

- ・ 実施科目の絞り込み等による教員のオーバーワークの改善や業務の効率化
- ・ 情報共通ツールの導入による講師間連携の緊密化
- ・ 教員の配置（一部の教員のみ担当している）

#### 【Web グラフィック分野】

- ・ チューターの配置見直しによる作品制作時の担当講師不足解消
- ・ IT分野の学生との連携による学生プロジェクトの改善
- ・ 理解不足の留学生等をフォローするための補講の定期的な実施

3-2 企業等と連携した実習・演習等が適切に実施され、教育課程の中で有効に機能しているか。

「ITシステム開発演習」(IT分野のコース)、「ゲーム制作総合演習」(ゲーム・クリエイティブ分野のコース)など、それぞれ実践性を養うことを目的とした基幹科目において、企業と連携した授業が行われています。

「ビジネスシミュレーション」(IT分野)、「作品発表会」(ゲーム・クリエイティブ分野)など、それぞれの科目において、企業から講師等を招き、グループ制作等に助言を得たり、作品の評価を受けたりするなどの試みを通じて、学生の実践性を高める工夫が積極的に実施されています。

特に、ゲーム・クリエイティブ分野では、最先端に行く企業と連携して、学校の目的・目標と整合した企業連携の在り方を具現しており、優れています。

学校法人山口学園が運営するECC COLLEGE 社会貢献・国際交流センターを通じて、ボランティア活動についても積極的に取り組み、社会との交流・連携を多様に進めており、優れています。

3-3 教育活動等に関する情報が、ホームページ等により適切に公表されているか。

職業実践専門課程に求められる情報公開については、ナビゲーションのしかた、情報公開の範囲ともに、認定要件を十分に満たした水準にあります。学生と教職員が日常的に参照する「HANDBOOK」を公開し、入学を検討する者、その保護者、企業、地域社会等のステークホルダーに対して幅広く情報を提供しており、優れています。

ホームページには、多様な閲覧者を想定したさまざまなコンテンツを配しています。特に、閲覧者の多様性に配慮し、「訪問者別メニュー」ページを設けることにより、閲覧者の便宜を図っています。

以上の内容を総合して、「**基準3を満たしている。**」と判断します。

**【優れた点】**

- ゲーム・クリエイティブ分野では、学校の目的・目標と整合した企業連携の在り方を考え、ゲーム等の業界で最先端に行く企業と連携した授業を行っており、優れています。
- 設置者が運営するECC COLLEGE 社会貢献・国際交流センターを通じて、ボランティア活動についても積極的に取り組み、社会との交流・連携を多様に進めており、優れています。
- 学生と教職員が日常的に参照する「HANDBOOK」を公開し、入学を検討する者、その

保護者、企業、地域社会等のステークホルダーに対して幅広く、わかりやすく情報を提供しており、優れています。

**【改善を要する点】**

**【更なる向上が期待される点】**

## 基準4 内部質保証

- 教育の状況等について、自己点検・評価および企業と連携した学校関係者評価が定期的実施され、それらの結果に基づいて質の改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。
- 教職員等に対する研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

**【評価結果】** 基準4を満たしている。

評価結果の根拠・理由

4-1 学生受入の状況、教育の状況および成果や効果について、自己点検・評価および学校関係者評価が適切かつ組織的に行われているか。その際、学生からの意見、学外関係者の意見や専門職域に係わる社会のニーズが、自己点検・評価および学校関係者評価に適切な形で反映されているか。
---

自己点検・評価については、「自己点検・評価委員会規定」を整備した上で、平成20年度から毎年実施し、7月末前後に「自己評価報告書」を作成・公開しています。学校関係者評価については、「自己点検・評価委員会規定」とは別に、平成25年度に定めた「学校評価実施規定」の中で実施方法等を規定し、同年度から毎年9月に実施して、「学校関係者評価委員会報告書」を作成・公開しています。

「学校関係者評価委員会」は、自己点検・評価において課題として挙げられた点を主対象として、学生アンケート結果等の資料を付して解決を図る機会として位置付けています。このような方法により、重点的な課題に対して、より集中した解決を図る態勢が機能しています。

学校関係者評価委員会等において参照される学生アンケートは、①クラス担任満足度 ②担任就職サポート ③進路指導満足度 ④事務局満足度 ⑤校舎設備満足度 ⑥イベント満足度 ⑦総合満足度 ⑧外部企業 連携授業 ⑨ノート PC 支給 ⑩少人数・レベル別授業 ⑪SIC（夏期集中講座）・SPIC（春期集中講座）など多岐にわたった項目について満足度等を質問したものであり、きめ細かな点をアンケート項目で設定しており、優れています。

財務に関する資料も「情報公開」ページに掲載されており、会計報告書は監事より承認されています。

4-2 自己点検・評価および学校関係者評価の結果が学校内および社会に対して広く公開されているか。

自己点検・評価の結果は「自己評価報告書」として、学校関係者評価の結果は「学校関係者評価委員会報告書」として、それぞれ、毎年9月にWebページの「情報公開」ページに掲載され、公表されています。また、設置者の「情報の公表」ページにも掲載され、広く社会に公表されています。

4-3 自己点検・評価および学校関係者評価の結果がフィードバックされ、教育の質の改善・向上のための取組が組織的に行われ、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

自己点検・評価および学校関係者評価の結果は、「運営責任者会議」「カレッジリーダー会議」等において共有され、進級率・卒業率の向上、授業力の向上、国際力の強化、教育の質向上と学修成果の伸長、企業連携の強化など、学校の主要な運営活動の改善に生かされています。

4-4 企業等と連携した組織的な教員研修（ファカルティ・ディベロップメント）および職員研修（スタッフ・ディベロップメント）が適切に実施され、それらが教育の質の改善・向上に有効に機能しているか。

教員については、IT、ゲーム、CGに区分して、企業等が主催する、最新動向技術の習得・把握を目的とした外部研修等に積極的に参加しています。一方、IT分野においては、教員の外部研修機会が必ずしも多くないことを克服する工夫が期待されます。職員については、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会（大専各連）やNPO法人等が主催する、学校職員向けの研修に積極的に参加しています。

研修で得た知識や技術については、教職員、それぞれが利用可能な学内システムで共有が図られるとともに、年度末には、「教育成果（研究成果）」発表会を実施して、教職員の資質能力向上に資して、授業の改善等に結び付けており、優れています。

以上の内容を総合して、「**基準4を満たしている。**」と判断します。

#### 【優れた点】

- 学生アンケートを重視し、きめ細かな点をアンケート項目にしている点は優れています。
- ゲーム・クリエイティブ分野の教職員の研修が積極的に行われており、その成果は「教育成果（研究成果）」発表会等で共有され、教職員の資質能力向上につなが

り、授業の改善等に結び付いており、優れています。

**【改善を要する点】**

**【更なる向上が期待される点】**

- IT分野においては、教員の外部研修機会が必ずしも多くないことを克服する工夫が期待されます。

## 基準5 学修成果

- 目的・目標において意図している、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、学修成果があがっていること。
- 当該職業分野の期待に応える職業実践的な学修成果があがっていること。

### 【評価結果】 基準5を満たしている。

評価結果の根拠・理由

5-1 単位修得、修了状況、資格取得の状況等から判断して、意図している学修成果があがっているか。

全校における進級・卒業率は、2016年度が90.2%（在籍学生915名）、2017年度が89.4%（在籍学生998名）、2018年度が93.4%（在籍学生1,132名）と高い水準を維持しています。また、全校における成績分布は、2016年度が、A（優）40%、AとB（良）合計68%、2017年度が、A（優）43%、AとB（良）合計75%、2018年度が、A（優）41%、AとB（良）合計74%と高い水準を示しています。これらの点から、在校時の学修成果があがっていると判断できます。なお、成績評価については、2018年度まで50点以上を合格とする基準としていましたが、一般的な合格基準に合わせ、2019年度からは60点以上を合格とする基準に改める予定です。

IT分野における主要な学修成果目標である、国家試験（情報処理技術者試験）合格状況については、基本情報技術者試験合格者数67名（2018年度、合格率28.5%）、応用情報技術者試験合格者数16名（2018年度、合格率19%、2017年度11名）、高度情報技術者試験区分に属する試験の合格者数5名（2018年度、合格率31%、2017年度は6名）であり、全受験者数や情報系専門学校生に対する平均合格率（平成31年春期基本情報技術者試験では、前者が24.1%、後者が16.0%）を大きく上回る水準を達成しています。

ゲーム・クリエイティブ分野では、現役学生による作品が、U22プログラミングコンテスト 経済産業省大臣賞（ゲーム）、ISCA（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD）最優秀賞（ゲーム）、学生CGコンテスト 優秀賞（ゲーム）等をはじめ、さまざまな団体・企業等が主催するコンテストで数多く入賞（2016年度3件、2017年度5件、2018年度4件）を果たしており、優れています。

以上のことから、意図している学修成果があがっていると判断できます。

5-2 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

学生に対するアンケートは、前・後期末、それぞれ集中回答期間を設けて、授業アンケート（「授業総合満足度」など4項目）と学校アンケート（「クラス担任満足度」など11項目）を実施しています。授業アンケートについて、「授業総合満足度」は、2016年度から2018年度にかけて、3.82（5点満点）→3.86→3.83と推移しており、比較的安定的な満足感を与えていると判断されます。「力のつく授業」についても、3.85→3.87→3.85と推移しており、学生が「力を付けた」と感じていると判断されます。学校アンケートについて、「総合学校満足度」は、2016年度から2018年度にかけて、3.67→3.72→3.77と推移しており、学校としての改善の取組に対する満足度の上昇が観られます。

アンケートの定期的な実施に加え、相対的に評価が低いIT分野の学生に対しては、カリキュラム・授業に関する聞き取りを行い、その結果に基づいて、学修成果をあげられるようにすることに、日常的な改善に取り組んでいます。

以上のことから、学修成果を高めるための学校の取組が総合的に実施され、学修成果があがっていると判断できます。

5-3 修了後の進路の状況等の実績や成果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

長年に渡って築いてきたIT業界、ゲーム・クリエイティブ業界との良好な関係に基づき、学内において企業説明会・選考会や作品展示会を実施し、企業の採用担当者と学生が接触する機会を設けています（2018年度においては、企業説明会・選考会は約170社が参加、作品展示会には回ごとに約70社、180名以上の企業担当者が参加）。そのような機会を通じた企業との接触状況も含め、毎週行われる就職対策授業の中で、就職活動状況を把握し、学生個々の状況に即した進路指導を行っています。その結果、2018年度（2019年3月）卒業生の就職志望者244名に対し、内定者は242名で就職率は99.2%でした。また、単なる就職率の向上だけでなく、志望業界への就職（業界就職）にもこだわった進路指導に取り組んでおり、IT分野の業界就職率は92.3%（2018年度実績）にも上ります。また、創造力や企画力等の汎用的技能、プログラミング・CG等の専門実践技能など多様な資質を必要とするゲーム業界にあって、ゲーム・クリエイティブ分野の業界就職率は57.2%（IT業界も含めると89.5%）（2018年度実績）に上っています。

以上のことから、関係業界が求める人材の供給源となっている状況が窺え、進路状況からの面から見て、意図した学修成果があがっていると判断できます。

5-4 修了生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

修了生が就職した会社に対して、修了生の動向調査も兼ねたアンケートを実施し、学修成果の状況の把握に努めています。2018年度に実施したアンケート結果をまとめると、卒業生に対して満足しているとの回答率は約80%、不満であるという回答は約1%でした。同アンケートでは、退職率は32.4%と相対的に低くなっており（短期大学生の場合、卒後3年以内退職率は41.5% [厚労省調査より]）、かつ、退職の理由として技術的な問題をあげる例はごく稀で、もっぱら転職のための退職という結果を示していました。

以上のことから、業界のニーズに合った人材を育成し、かつ、IT、ゲーム・クリエイティブ業界において継続してキャリアを積むことができる人材を輩出しているという点で、学修成果があがっていると判断できます。

なお、「校友会」（修了生で構成される）を作るなど、修了生の声を聞く機会を設け、その意見をもとに教育内容を改善する努力が行われており、今後その成果が教育内容に反映されることが期待されます。

以上の内容を総合して、「**基準5を満たしている。**」と判断します。

**【優れた点】**

- ゲーム・クリエイティブ分野では、専門学校生が学修成果を披露して競う各種コンテストに多数の入賞者を輩出して、学校が意図する学修成果をあげており、優れています。

**【改善を要する点】**

**【更なる向上が期待される点】**

- 「校友会」（修了生で構成される）を作るなど、修了生の声を聞く機会を設け、その意見をもとに教育内容を改善する努力が行われており、今後その成果が教育内容に反映されることが期待されます。

## 【参考資料】

参考資料として対象学校から提出された自己評価書から、下記の項目について原則として原文のまま掲載します。

### I 現況および特徴（学校名、所在地、学生数および教員数、特徴）

#### ■学校名

学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校

#### ■所在地

〒530-0015

大阪府大阪市北区中崎西 2-3-35

#### ■学生数および教員数（評価実施年度 5 月 1 日現在）

マルチメディア学科・

システムエンジニアコース 学生数 67 人、常勤教員数 2 人、非常勤教員数 6 人  
経営工学科・

IT ビジネスサポートコース 学生数 65 人 常勤教員数 3 人、非常勤教員数 5 人  
マルチメディア研究学科・

CG デザインコース 学生数 127 人、常勤教員数 5 人、非常勤教員数 5 人  
マルチメディア研究学科・

ゲームプログラム開発コース 学生数 76 人、常勤教員数 4 人、非常勤教員数 5 人  
マルチメディア研究学科・

ゲーム企画開発コース 学生数 9 人、常勤教員数 1 人、非常勤教員数 1 人  
マルチメディア研究学科・

I T 開発研究コース 学生数 122 人、常勤教員数 4 人、非常勤教員数 5 人  
マルチメディア研究学科・

W e b デザインコース 学生数 42 人、常勤教員数 2 人、非常勤教員数 2 人  
マルチメディア研究学科・

グラフィックデザインコース 学生数 9 人、常勤教員数 1 人、非常勤教員数 1 人  
高度情報処理研究学科・ゲーム開発

エキスパートコース 学生数 564 人、常勤教員数 20 人、非常勤教員数 20 人  
高度情報処理研究学科・

I T 開発エキスパートコース 学生数 185 人、常勤教員数 7 人、非常勤教員数 8 人

## ■特徴

### 【学校の特徴】

ECCコンピュータ専門学校（以下、本学という）は、総合教育機関ECC創立者で学校法人山口学園初代理事長である山口 勇の「建学の理念」に則り、1997年4月大阪市北区中崎西に開校した。工業専門課程の中に昼間部4学科（2年制2学科、3年制1学科、4年制1学科）を設置して、IT、ゲーム、CG、Web、グラフィックデザイン等の教育を行っている専門学校である。

姉妹校に語学ビジネス専門教育の「ECC国際外語専門学校」（昭和59年2月認可）と美容・健康・芸術の専門教育を行う「ECCアーティスト美容専門学校」（平成15年3月認可）、留学生の日本語教育を行う「ECC国際外語専門学校 日本語学科」が北区中崎町に集結している。

山口学園の教育理念として、「実践的な専門知識の教育と技能の習得を通じて、社会が求むところの高度専門職業人の養成、且つ、豊かな社会、平和と幸福を希求してやまないところ豊かな社会人の育成をはかる」と定めている。そして、「山口学園の理念」を実現するために、「山口学園の行動規範」を定めている。これは教職員一人ひとりが日々理解し実践すべき行動のありかたを示したもので、同時に、誠実に遵守することをすべての学園事業の関係者（ステークホルダー）に約束するものでもある。

1. 学校法人山口学園の教育活動に携わる一員として、その社会的使命に誇りと高い職業的倫理観をもつ

て、見識と技術向上のために日々自己を磨く。

2. 質の高い教育の創造と実践に努め、学生、保護者および社会より、その成果に信頼を寄せていただくこと

をめざす。

3. 迅速な対応と公平な態度をもって、誠心誠意、学生一人ひとりの期待に応える。

4. 自らの変革を求め、有言実行、誠実、謙虚を旨とし、職場におけるお互いのよいコミュニケーションに努める。

## II 学校の目的・目標

山口学園の運営目標として、「1. 変化する時代社会の要請に即応し、学生、保護者、そして広く社会よりの期待に応える最先端の専門学科、コースの開発に努め、社会の持続的発展に寄与する専門学校づくりをめざす。2. 教職員が誇りをもち、且つ、安全で健康な楽しく働きやすい環境を有する専門学校づくりをめざす。3. さまざまな社会貢献活動への参画を通して、卓越した実行力を有する専門学校づくりをめざす。」と定めている。

経営目標としては、「専門力」「国際力」「人間力」を備えた高度な専門職業人を輩出する高等教育機関として、その卓越性と実行力でエリア No. 1（オンリーワン）を目指すとし、具体的には

- (1) 職業教育による人材育成を通じて社会に貢献する。
- (2) グローバルな視野と専門知識を身に付けた実践力のある人材を養成し、国際社会と地域社会の発展に寄与する。
- (3) 存在感のある卓越性を獲得し、持続的成長を実現する。

と定めている。

また、本学の教育目的については「本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、情報処理教育を通じて高度な技術力・柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、企業及び社会が必要とする人材の育成を目的とする。以って世界の情報ネットワークの推進と情報社会の発展に寄与したい。」と定め、育成人材像を明確にしている。

そして、本学では各業界で長く活躍する人材を輩出するために、3つの力「専門力」「人間力」「国際力」の育成に力を入れている。業界最先端の技術に加え、問題解決力、世界を見据える視野、トレンドを察知する能力などの「専門力」（技術）を鍛える。また全コースで英会話授業を導入するとともに語学留学や海外研修を実施し、国境を越えて色々な人と交流ができる「国際力」（視野の広さ）を養成。さらに、グループ学習や地域活動を通し、リーダーシップや協調性、責任感などの「人間力」（チームコミュニケーション、積極性、マナー、目標達成力）を養っている。

これらの教育理念・運営目標・経営目標・教育目的・育成人材像のいずれも明確に定められており、教職員・学生等に周知されている。

次に本学の特色として、それぞれの分野ごとに「カレッジ制」という学びのステージを用意し、3つのカレッジ「ゲーム・クリエイティブカレッジ」「ITカレッジ」「デザインカレッジ」でそれぞれの専門性を追求している。そして入学者全員にノートパソコンを無料で支給している。この最大の目的はクリエイティブ分野の就職活動時には必ず必要な「作品」を制作するためであり、学校にあるパソコンと同等スペックのノートパソコンを支給することによって、学校以外（自宅等）でいつでも作品制作ができ、レベルアップが図れるからである。IT分野に関しても資格試験対策や、課題制作に利用している。

また「専門力」を身につけるため、プログラミング科目に「コア科目」（C言語・C++・Java）を設定し、習熟度別に最大10クラスのレベル分けをし、15名以内の少人数クラスを編成し授業を実施している。年間の授業は2セメスター制を採用し、半期ごとに習熟度をチェックし学習の質を上げることを目指している。またS I C・S P I Cと名づけている夏期と春期に実施する集中対策講座（2週間）によって習熟度の低い

学生に対する補講や作品制作授業（チーム制作・個人制作）を実施し技術の向上や学力の向上を図っている。

「国際力」については全てのコースに英会話の授業を必修で実施している（レベル別クラス編成）。また、ECC Gaming Plaza（EGP）や海外研修プログラム（E3研修）、海外留学制度を用意し、姉妹校のECC国際外語専門学校にある英語専用フロアEIP（ECCInternational Plaza）の利用も可能である。

「人間力」に関しては、チーム制作やグループ制作を通じてリーダーシップ・問題解決力・協調性・責任感を養い、地域貢献活動やサービス・ラーニングでは、人や社会との繋がりを設け、交流の中で人間力を学ぶ活動を実施している。

各学科・コースのカリキュラムや学校運営に関しては、職業実践専門課程の教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を通じて、企業や業界と連携をしながら変化に対応すべく毎年見直しを行っている。

### Ⅲ 自己評価の概要

#### ■ 基準 1

山口学園の理念に則り、情報処理教育を通じて高度な技術力、柔軟な思考力、豊かな人間性を有し、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた企業及び社会が必要とする人材を育成することを方針としている。理念・学校の教育目的・教育目標は「入学募集要項」、在校生・教職員に配布する HANDBOOK、及びホームページに明記し、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会、企業連携授業などからの意見を取り入れ、就職から逆算した職業教育を行っている。

入学者受入方針は、明確に定められており、募集要項にて公表、周知されている。入試形態は、AO 入試・公募推薦入試・一般入試であり、入試面接ガイドラインに従って一貫した方針と基準によって、入学者を選抜している。入学定員に対しては適正な入学者選抜を行っている。一部定員をオーバーしている学科があるが、クラス数を増やすなどの対応を行った。

#### ■ 基準 2

教職員の採用と組織編成、教員数とその専門性の確保は専修学校設置基準に基づいて適切に行われている。教育課程（カリキュラム）は目標とする業界に就職し長く活躍できるよう編成されており、学生の履修に配慮した時間割設定と学習指導が行われている。施設・設備についてはゲーム・IT 業界に就職するための教育を行うのに十分な教室とコンピュータ数を有している。また、ゲーム・IT 業界の就職のためのキャリア教育と就職指導を学生全員に行っているだけでなく、留学生の日本語力にも配慮した指導を行っている。

#### ■ 基準 3

教育課程編成委員会、企業等と連携した実習・演習、教育活動等に関する情報公開に関しては職業実践専門課程の認定要件に全て適合している。平成 25 年度、26 年度認定学科（高度情報処理研究学科・マルチメディア研究学科）に関してはすでにフォローアップも実施し要件をクリアしている。平成 27 年度認定学科（マルチメディア学科）に関しては、本年度にフォローアップを行う予定である。

#### ■ 基準 4

自己点検・評価および学校関係者評価に関しては、それぞれに規約を作成し、職業実践専門課程の要件に沿った委員会の実施とそれらの結果を一般に公開している。FD と SD に関しては外部研修等については通年での予算化を行い、計画的に積極的に推

進する体制である。

■基準 5

教務的には、修了状況、単位修得、資格取得、コンテスト入賞から判断して、意図している学修成果は上がっていると言える。

進路指導的にも就職率、業界就職率から判断して意図している学修成果は出ている。